

国際理解研究所から比較文化研究所へ

公立小松大学

岡 村 徹

2018年4月比較文化研究所が発足した。しかし文化を比較することは決して容易なことではない。二者を並べあわせたとき、相違点を際立たせることに意識が向かいがちなためである。しかし共通点を探ることもまた比較文化論の重要な任務であろう。そのためには比較の方法がわかっていなければならない。さらに、比較対象となる文化の全体像がわかっていなければならない。違いに着目した比較文化論よりも、共通点に着目した比較文化論に徹すると、そこから、どちらかの文化からものを見ることを超越して、公平に対象文化を見る目というものが養われるのではなかろうか。

最終的には私たち人間が暮らす社会に生じる相違が、不平等や差別へと転化するメカニズムを明確にしていく方向性がある。それを実践することによって人類の共存を謳うことができる。相違があってもそこに実り豊かな対話を成立させるためには、‘伝える力’についての透徹した考察が必要である。また人間がこの地球上のあらゆる生物と連続した存在であることも忘れてはならないであろう。

国際理解研究所は国家間の政治、経済、社会等の比較をとおして世界が抱える諸問題を浮き彫りにすると同時にその課題解決に向けた提言をマクロな視座から積極的に行ってきたが、それに加えて比較文化研究所では比較対象をさらに拡大し、高齢者文化と若者文化、男性文化と女性文化、中産階層文化と労働者階層文化、黒人文化と非黒人文化、といったミクロな視座からのアプローチも重視する。

比較文化研究所では、以上のような問題意識を共有しつつ、既存の学問分野それぞれの長所を活かしながらも、それを超えるような学際的研究を推し進めることをめざす。異なる文化伝統をもつ諸社会が歴史を知ることによって互いに寛容性を高め、共生していく絶好の機会として捉えていく発想も大事である。私たちはそれを地域の皆様と一緒に模索していきたい。

(おかむら とおる・元国際理解研究所長)

国際理解公開講座

